

令和7年度 M I E 職員カアワード 部門賞受賞取組概要

募集部門	部局名	活動テーマ	グループ名	取組概要
仕事の進め方改革部門	雇用経済部	【受け身から自ら動くへ】SNSが拓く公設試の新しい技術支援	YouTube WG(ワーキンググループ)	本取組では、相談を待つ“受け身”の支援体制から脱却し、SNSを活用して「自ら動き、支援の機会を生み出す」公設試への転換を目指しました。YouTubeで技術内容を積極的に公開し、研究所の技術力が見える化したことで、お客様の方から近づいてくれる循環が生まれました。登録者は3倍、年間再生数は72.7万回となり、東京の松屋銀座100周年企画展での展示協力や植物の3D造形等の技術支援など新たな連携も実現しました。県内部では埋蔵文化財センターとの協働など、横連携も拡大しました。また、開放機器のレクチャー動画により業務効率も向上しました。SNSを軸に、受け身から自ら動く支援体制が形成されつつあります。
デジタル活用部門	総務部	バーコードリーダーの活用で作業時間の大幅削減！	文書・情報公開課	本庁に到達した文書は、文書・情報公開課文書担当で一旦受け取り、各課へ配付します。そのうち、書留郵便物その他特別の取扱いによる郵便物は、公文書管理規程で差出人、宛先、引受番号等を特殊文書收受簿に記入することとされています。これまでは手書きで記載していましたが、「これって非効率では！？」と思い、引受番号のバーコードを活用して入力することにより大幅な効率化ができると考え、DX支援窓口へ相談。バーコードリーダーを利用して、引受番号を入力できるようになりました。さらに、各所属のバーコードを作成し、スキャンして所属名が入力できるようにしました。これにより年間約80時間の作業時間削減につながったことから、レターパックの引受番号もバーコードリーダーで入力し、到着確認ができる取組も始めました。
自由テーマ部門	環境生活部	「もったいないを、ありがとうへ！」 県庁フードドライブ	資源循環推進課 リサイクル推進班	食品ロス削減と職員の環境意識の向上および食品を必要とされている方への支援を目的に、県庁初のフードドライブを実施しました。資源循環推進課前に、食品回収ボックスを設置し、職員が家庭で使いきれない食品の寄付協力をお願いしました。寄付いただいた食品は、三重県社会福祉協議会及び津市社会福祉協議会を通じて、県内の子ども食堂や生活困窮者支援に活用されました。寄付食品の総量は47kg、289点となり、廃棄物の発生抑制につながるとともに、同量の廃棄物処理に必要な二酸化炭素の削減にも貢献できました。